

# 淀川水系の概要

---

令和3年6月25日時点

国土交通省 水管理・国土保全局 水資源部

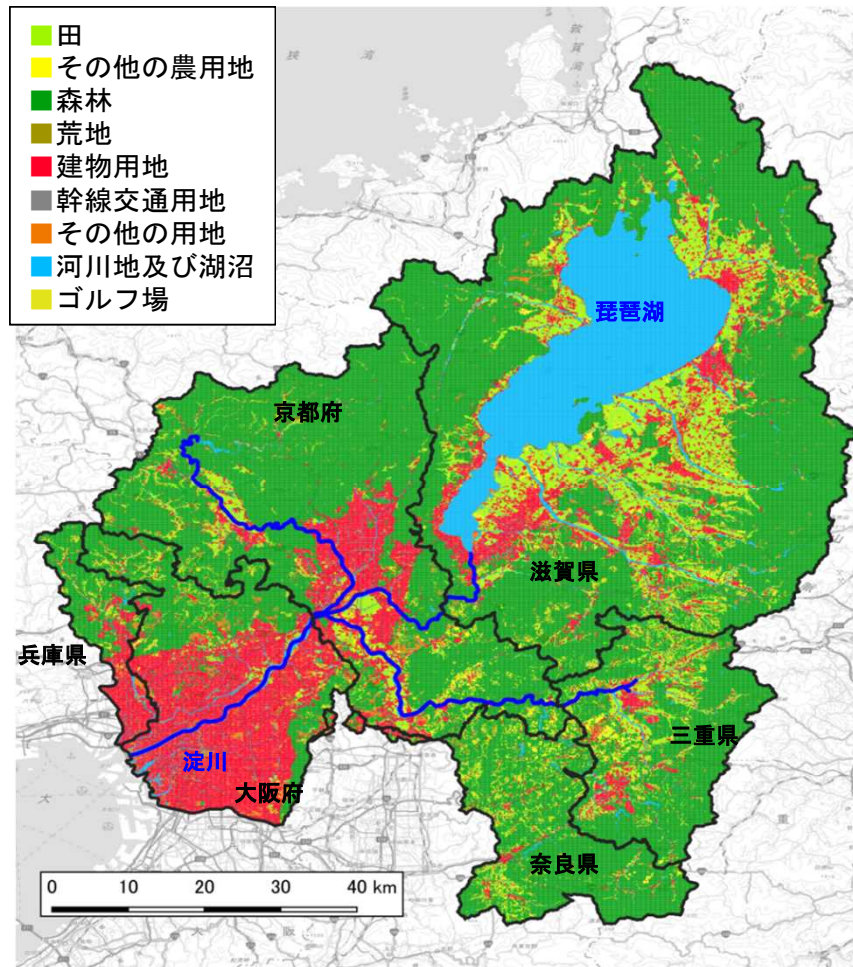
# 目次

○ 淀川流域の概要	
概要	1
降水量	2
○ 近畿圏の社会情勢	
概要	3
人口	4
産業の状況	5
農業の状況	6
水道用水・工業用水・農業用水の現状	7
○ 淀川水系の特徴	
治水・利水、上下流関係	8
水の再利用の概要	9
琵琶湖開発事業の概要	10
低水管理の概要	11
渇水の状況	12
○ 淀川水系の課題	
大規模地震	15
地盤沈下	17
洪水等の被害	18
○ 淀川水系における水資源開発基本計画の概要	
概要	19
水資源開発基本計画に基づく水資源開発	20
水資源開発基本計画に基づく施設	21
現行計画掲上事業の状況	22
既存ダムの有効活用	24
既存ダムの長寿命化対策	25

# 淀川流域の概要

- 淀川は、その源を滋賀県山間部に発する大小支川を日本最大の淡水湖・琵琶湖に集め、大津市から河谷状となって南流し、桂川と木津川を合わせて大阪平野を西南に流れ、途中神崎川及び大川（旧淀川）を分派して大阪湾に注ぐ、幹川流路延長約75km、流域面積約8,240km<sup>2</sup>の一級河川である。
- 流域内人口は約1,248万人（H27国勢調査）であり、その流域は、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県の2府4県にまたがり、大阪市、京都市をはじめ54市17町4村（令和2年3月末現在）からなる。

淀川流域の土地利用図



出典：国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ(平成28年)をもとに作成

宇治川、桂川、木津川の三川合流部は、天王山と男山に挟まれており(京都盆地の出口)、その下流には広大な平野が広がる。



琵琶湖



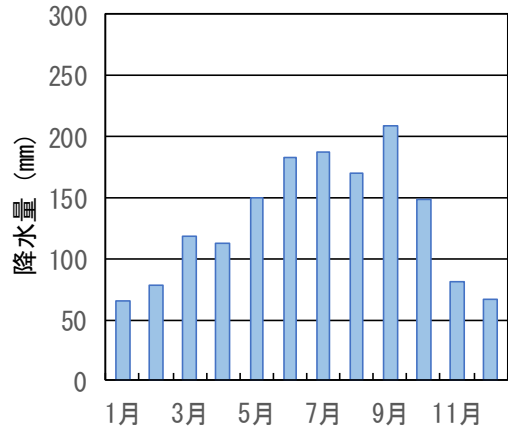
三川合流部

# 淀川流域の概要 ～ 降水量 ～

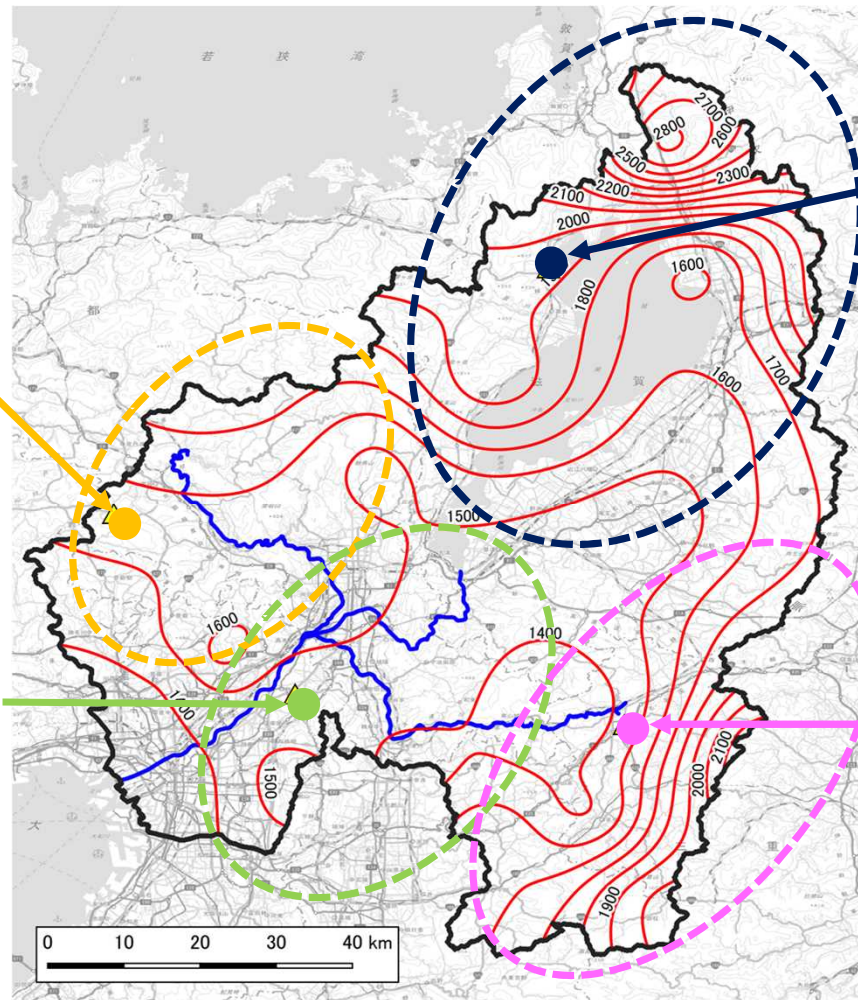
- 流域の年平均降水量は1,600mm程度であり、全国平均の1,700mm程度（1981～2016年の全国約1300地点の平均）と同程度である。
- 気候特性により、日本海型気候区に属する琵琶湖北部、太平洋型気候区に属する木津川上流部、前線の影響を受けやすい桂川上流部と猪名川上流部、瀬戸内海気候区に属する中・下流部の4区域に区分することができ、流域内の気候特性が異なる。

## 前線の影響を受けやすい桂川上流部・猪名川上流部

<園部> 年平均気温13.6℃、年平均降水量1569mm

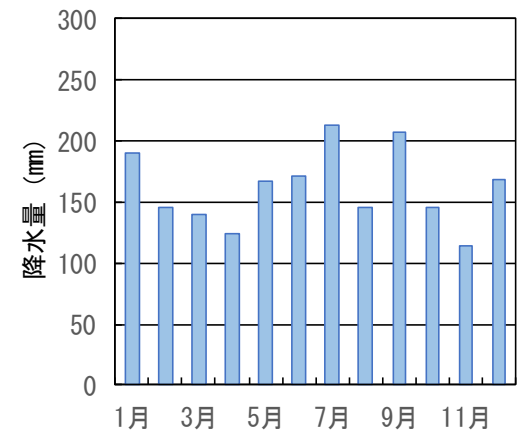


## 年平均降水量分布図 (平成元年～令和元年)



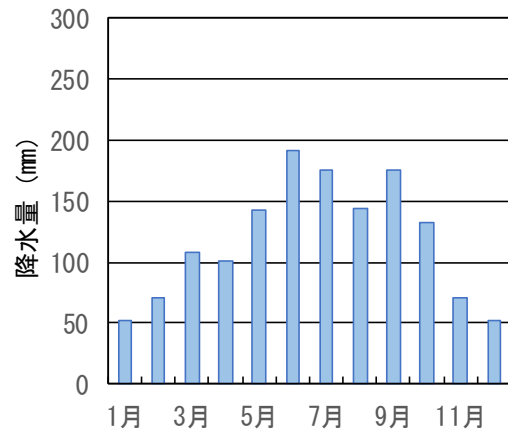
## 日本海型気候区に属する琵琶湖北部

<今津> 年平均気温14.1℃、年平均降水量1935mm



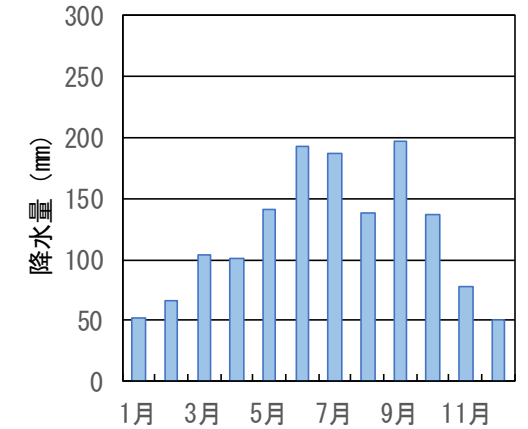
## 瀬戸内海気候区に属する中・下流部

<枚方> 年平均気温16.1℃、年平均降水量1415mm



## 太平洋型気候区に属する木津川上流部

<上野> 年平均気温14.6℃、年平均降水量1443mm



# 近畿圏の社会情勢 ～ 概要 ～

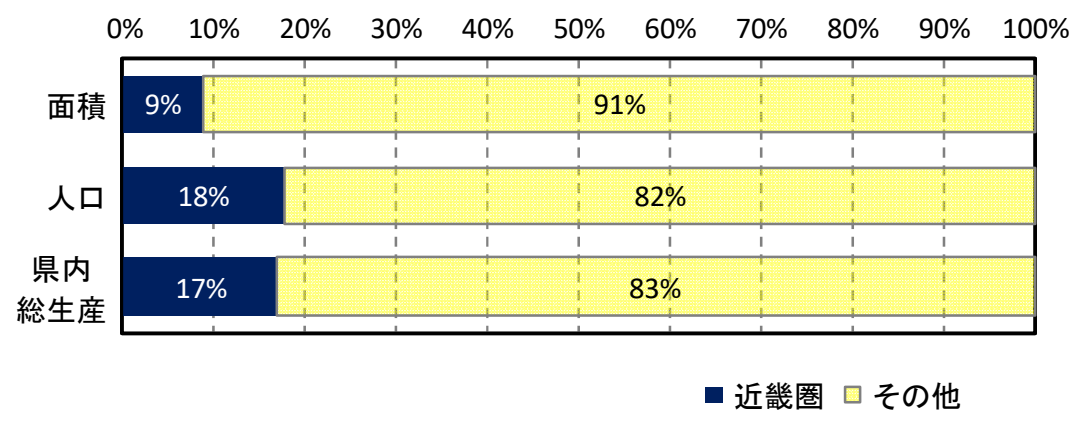
- 近畿圏※は、古くから我が国の政治、経済、文化や国際交流の中心的役割を担ってきた地域で、我が国の国土の約1割に、人口の約2割、経済の約2割が集積される我が国第2の経済圏である。
- 第二次国土形成計画（平成27年8月14日閣議決定）では、「リニア中央新幹線の開業により、三大都市圏（東京圏、名古屋圏、大阪圏）が時間的には都市内移動に近いものとなるため、三大都市圏がそれぞれの特色を発揮しつつ一体化し、4つの主要国際空港、2つの国際コンテナ戦略港湾を共有し、世界からヒト、モノ、カネ、情報を引き付け、世界を先導するスーパー・メガリージョンの形成が期待」とされている。

※近畿圏：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県及び和歌山県の2府4県

（国土形成計画法第9条第1項第1号、国土形成計画法施行令第1条第1項）。

なお、淀川水系の流域及び同水系から水の供給を受ける地域（フルプランエリア）には、和歌山県は含まれず、三重県を含む。

近畿圏の面積・人口・県内総生産



出典：面積（日本の統計2020 総務省統計局）  
 人口（人口推計（2019年10月1日時点）総務省統計局）  
 県内総生産（平成29年度県民経済計算 内閣府）

スーパー・メガリージョンの形成

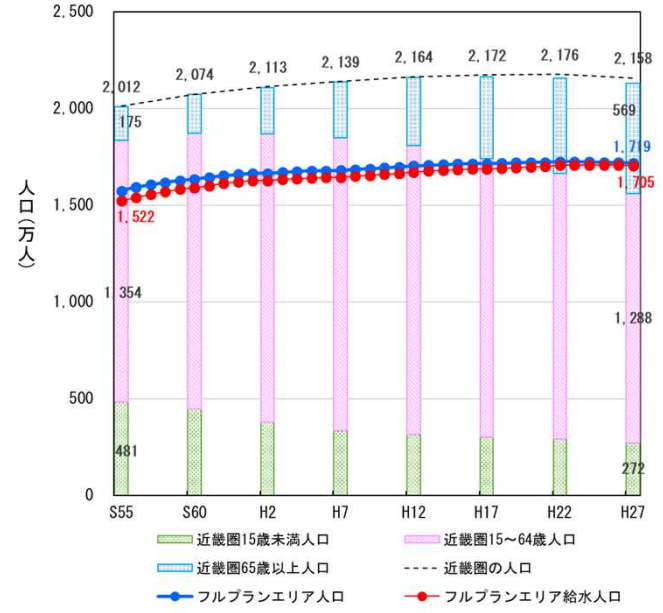
第二次国土形成計画では、東京、名古屋及び大阪を結ぶリニア中央新幹線により世界最大の人口を有するスーパー・メガリージョンが形成されることを見据え、世界からヒト、モノ、カネ、情報を引き付け世界を先導する巨大経済圏の形成を推進することとされた。



# 近畿圏の社会情勢 ～ 人口 ～

- 近畿圏の人口は、平成22年頃をピークに近年はほぼ横ばい、平成27年度の人口は約2,158万人(H27国勢調査)である。
- 淀川水系のフルプランエリアの人口は、約1,720万人( H27国勢調査)である。上水道給水人口は、平成24年頃をピークに減少傾向にある。
- 近畿圏における将来人口は、2020年以降減少する予測になっている。

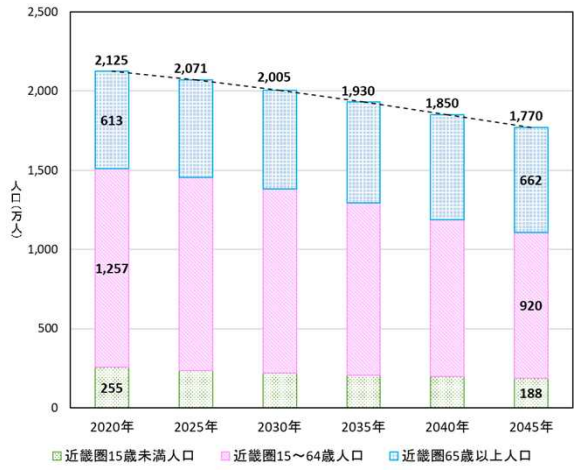
近畿圏・淀川水系のフルプランエリアにおける人口の推移



出典：圏域の人口：政府統計の総合窓口ウェブサイト(第6表 年齢(3区分), 男女別人口及び年齢割合)を基に水資源部で作成(各年の人口は、10月1日時点)、合計値(破線)には年齢不詳のデータを含むため合計が含まれない場合がある。

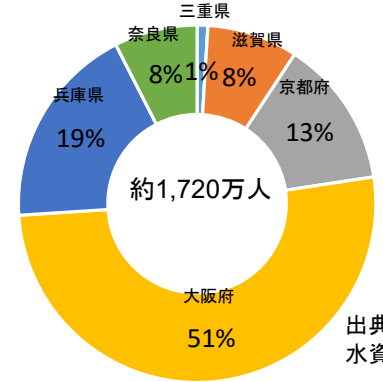
淀川水系のフルプランエリアの人口・給水人口：水道統計(日本水道協会)を基に水資源部で作成(各年の人口は、翌年3月31日時点)

近畿圏における将来人口



出典：日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)(平成30年3月、国立社会保障・人口問題研究所)を基に水資源部で作成

淀川水系のフルプランエリアにおける人口の割合



出典：平成27年国勢調査結果より水資源部作成(H27.10.1時点の人口)

淀川水系のフルプランエリア

















































